

市政記者クラブ 様

令和3年10月14日（木）  
健康福祉局新型コロナウイルス  
感染症対策部感染症対策室  
担当（結核以外）：中村、内田  
（結核）：加藤、増田  
電話：972-2631（結核以外）  
電話：972-2633（結核）

### 名古屋市感染症発生動向調査（令和3年9月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

#### 1 9月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和3年9月	令和2年9月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	32件	46件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	2件	5件
◆四類感染症 ・A型肝炎 ・レジオネラ症	1件 2件	0件 6件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ・急性脳炎 <sup>注1</sup> ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。） ・梅毒 ・播種性クリプトコックス症	2件 5件 1件 1件 2件 1件 1件 21件 1件	3件 7件 0件 3件 6件 0件 2件 16件 0件
◆五類感染症（定点把握疾病：第35週～第39週（8月30日～10月3日分）） ・報告数の多い疾病は、①感染性胃腸炎（419件：前月期比1.40倍）②ヘルパンギーナ（338件：前月期比2.14倍）③RSウイルス感染症（80件：前月期比0.45倍）の順となっています。		

注1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

## 2 トピックス

### 《ヘルパンギーナ（水疱性咽頭炎）》

ヘルパンギーナ（水疱性咽頭炎）は、コクサッキーウイルスA群を主な原因とする感染症です。潜伏期間は3～5日であり、乳幼児に多く、例年、夏から初秋にかけて流行するため注意が必要です。

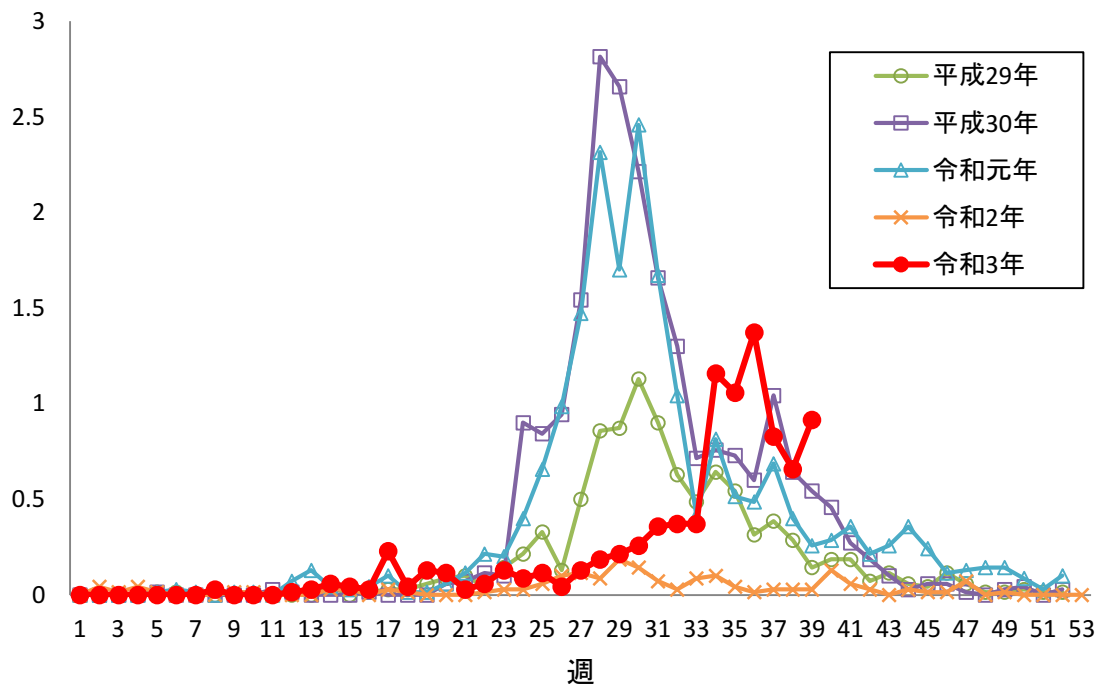
感染経路は、くしゃみ等の飛沫による感染のほか、汚染された手や飲食物を介して感染することもあります。

主な症状は、口腔内の水疱、発熱及び咽頭痛です。水疱が破れると痛みが生じ、食事や水分が十分にとれず、脱水症になることがあるため、食事がとりにくい場合は、熱いものや固いものは避け、水分補給を心がけましょう。

令和3年第35週から第39週までの報告数が、過去5年の中で最も多い報告数となりました。引き続き、今後の発生動向に注視が必要です。

治療は対症療法が中心となるため、予防が重要です。症状がおさまった後も、2～4週間程度は便などにウイルスが排泄されるため、患者との接触を避け、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いを徹底しましょう。

人/定点 名古屋市でのヘルパンギーナ報告数



### 3 病原体分離情報（令和3年9月検査分）


1. 令和3年5月21日発症、令和3年5月21日に市内医療機関を受診し、急性脳炎と診断された南区在住、0歳11ヶ月、男児の検体（髄液）から、急性胃腸炎や呼吸器感染症の原因ウイルスの一つとされているヒトパレコウイルス1型を細胞培養法により分離・同定しました。
2. 令和3年7月3日発症、令和3年7月3日に市内医療機関を受診し、急性脳症と診断された守山区在住、1歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、急性呼吸器感染症の原因となるヒトボカウイルスを遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和3年7月18日発症、令和3年7月19日に市内医療機関を受診し、不明発疹症と診断された千種区在住、34歳、女性の検体（咽頭拭い液）から、小児の時期に感染し、無症状か風邪症状、突発性発疹の原因となることが知られている HHV-7 (Human Herpes virus 7) を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和3年7月22日発症、令和3年7月25日に市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された名東区在住、37歳、男性の検体（結膜拭い液）から、流行性角結膜炎の原因となることが知られているアデノウイルス37型を遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 令和3年7月23日発症、令和3年7月25日に市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された名東区在住、25歳、女性の検体（結膜拭い液）から、流行性角結膜炎の原因となることが知られているアデノウイルス37型を遺伝子検査法により検出・同定しました。
6. 令和3年8月1日発症、令和3年8月4日に市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された名東区在住、38歳、女性の検体（結膜拭い液）から、流行性角結膜炎の原因となることが知られているアデノウイルス37型を遺伝子検査法により検出・同定しました。
7. 令和3年8月22日発症、令和3年8月26日に市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された名東区在住、59歳、男性の検体（結膜拭い液）から、流行性角結膜炎の原因となることが知られているアデノウイルス37型を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和3年 第35週～第39週（8月30日～10月3日）

	小児科・インフルエンザ定点報告 (70医療機関)											眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)						合 計	
	RSウイルス感染症	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎定された場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)	インフルエンザによる入院患者		
千種	14	-	1	-	27	2	-	-	10	45	1	-	4								104
東	-	-	1	2	4	-	-	-	5	11	-										23
北	6	-	-	1	38	3	-	-	5	14	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	72
西	10	-	8	40	30	-	-	-	11	95	2	-	2								198
中村	4	-	-	3	49	-	-	-	1	4	-	-	-								61
中	1	-	-	1	35	1	1	-	6	39	1										85
昭和	-	-	-	-	14	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
瑞穂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6								6
熱田	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-								-
中川	13	-	2	2	43	1	2	-	3	73	-			-	-	-	-	-	-	-	139
港	2	-	-	6	58	-	-	-	-	1	-										67
南	12	-	-	7	19	-	1	-	2	4	-	-	-								45
守山	3	-	1	1	25	-	1	-	8	15	1										55
緑	4	-	-	1	32	1	1	-	11	14	1	-	1								66
名東	5	-	5	-	14	-	-	-	13	16	-	-	-								53
天白	6	-	-	-	31	-	-	-	2	3	1	-	-								43
合計	80	0	18	64	419	8	6	0	78	338	8	0	17	0	0	0	0	0	0	0	1,036
前月	178	0	25	58	300	5	16	0	47	158	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	807
前月比	0.45	-	0.72	1.10	1.40	1.60	0.38	-	1.66	2.14	0.80	-	1.70	-	-	-	-	-	-	-	1.28
昨年同月	0	0	31	84	410	12	25	1	91	16	11	0	8	0	1	0	0	0	0	0	690

注：  は、報告する医療機関がないことを表す。

## 名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和3年9月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感 染器 症 クラ ミジ ア	ウ性 イ器 ルヘル ス感 染症	尖 圭 コ ン ジ ロー マ	淋 菌 感 染 症	感 染 色 ブ ド ウ 球 菌 性	メ チ シ ド リ ン 耐 性	肺 炎 球 菌 感 染 耐 性	
千種	3	0	0	1	/	/	/	4
東	/	/	/	/	/	/	/	/
北	20	0	1	10	0	0	0	31
西	3	0	0	0	/	/	/	3
中村	11	1	1	6	/	/	/	19
中	37	9	5	21	/	/	/	72
昭和	9	4	1	11	0	0	0	25
瑞穂	0	2	0	0	/	/	/	2
熱田	/	/	/	/	/	/	/	/
中川	15	0	3	9	0	0	0	27
港	9	4	0	0	/	/	/	13
南	0	0	0	0	/	/	/	0
守山	/	/	/	/	/	/	/	/
緑	9	3	0	3	/	/	/	15
名東	1	0	0	0	/	/	/	1
天白	1	1	0	0	/	/	/	2
<b>合計</b>	<b>118</b>	<b>24</b>	<b>11</b>	<b>61</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>214</b>
前月	133	39	15	83	2	1	0	273
前月比	0.89	0.62	0.73	0.73	0.00	0.00	-	0.78
昨年同月	114	27	22	71	0	0	0	234

注 は、報告する医療機関がないことを表す。

9月分患者報告数	
週報分	1,036
月報分	214
合 計	1,250

令和3年 9 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和3年 9 月	令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	1	-	4
	腸管出血性大腸菌感染症	2	28 (3)	42 (5)	45 (10)
	腸チフス	-	-	-	1
	パラチフス	-	-	-	1
	合 計	2 (0)	29 (3)	42 (5)	51 (10)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ( )内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和3年 9 月	令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	1	22 (3)	19 (1)	28 (5)
O26	1	4	10 (2)	5 (1)
O103	-	-	4 (1)	2 (1)
O111	-	1	3	-
O121	-	-	1	-
O145	-	-	2	6 (2)
O165	-	-	-	1
O166	-	-	-	1
その他	-	1	3 (1)	-
型 不 明	-	-	-	2 (1)
合 計	2 (0)	28 (3)	42 (5)	45 (10)

## 結核 新登録患者発生状況（月報）

9月

保健センター名	令和3年9月（※）			令和3年計（※）			令和2年計			平成31年(令和元年)計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	1	0	1	10	4	12	28	14	3	22	9	6
東	1	0	2	11	3	5	5	0	5	19	9	5
北	2	1	0	14	5	7	26	10	6	29	9	11
西	4	0	2	17	6	8	26	9	6	21	5	8
中村	0	0	1	14	6	7	36	11	8	28	15	23
中	0	0	0	15	2	10	23	11	9	26	9	10
昭和	3	0	2	15	8	9	18	7	7	11	5	5
瑞穂	1	1	1	10	5	4	23	6	4	19	9	13
熱田	1	0	2	9	0	2	16	5	2	7	5	7
中川	1	0	1	28	6	13	40	11	6	49	15	16
港	0	0	0	12	2	5	32	13	8	30	7	13
南	2	0	0	22	5	6	23	10	5	42	18	7
守山	0	0	1	16	5	7	21	8	5	30	8	10
緑	1	0	0	16	8	4	23	7	13	34	12	21
名東	1	0	0	14	5	5	19	10	6	29	11	10
天白	1	1	0	19	7	7	19	8	4	26	13	11
<b>全市</b>	<b>19</b>	<b>3</b>	<b>13</b>	<b>242</b>	<b>77</b>	<b>111</b>	<b>378</b>	<b>140</b>	<b>97</b>	<b>422</b>	<b>159</b>	<b>176</b>

※ 令和3年の数値は暫定値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和3年9月		令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		2	3	3
A型肝炎	1		1	4	5
チクングニア熱	-		-	-	3
つつが虫病	-		-	-	1
デング熱	-		-	3	9
マラリア	-		-	-	1
レジオネラ症	2		26	27	40
合 計	3		29	37	62

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和3年9月		令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	2		10	15	21
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	-		B型： 1 - -	B型： 1 - その他： 2	B型： 3 - その他： 1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	5		42	49	57
急性脳炎※	1		2	8	20
クロイツフェルト・ヤコブ病	-		3	3	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		26	25	30
後天性免疫不全症候群	2	無症候性キャリア： 2	無症候性キャリア： 37 AIDS： 21	無症候性キャリア： 49 AIDS： 10	無症候性キャリア： 55 AIDS： 17 その他： 1
ジアルジア症	-		-	1	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	-		7	11	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		-	1	5
侵襲性肺炎球菌感染症	1		27	47	94
水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	1		3	10	7
梅毒	21	早期顕症梅毒： 16 無症候梅毒： 5	早期顕症梅毒： 110 晚期顕症梅毒： 1 先天梅毒： 2 無症候梅毒： 43	早期顕症梅毒： 112 晚期顕症梅毒： 3 無症候梅毒： 52	早期顕症梅毒： 132 晚期顕症梅毒： 6 無症候梅毒： 74
播種性クリプトコックス症	1		4	3	4
破傷風	-		1	-	2
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	1	-
百日咳	-		34	51	270
風しん	-		-	検査診断例： 7	検査診断例： 27
麻しん	-		-	-	検査診断例： 7 修飾麻しん： 3
合 計	35		375	461	856

※ ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握(侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く)を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。



参考資料

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 (5 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 (44 疾病)	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 (全数：24 疾病) (定点：24 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ 等感染症 (4 疾病)	<p>【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの</p> <p>【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの</p>
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染性と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

(令和3年9月30日時点)